

シンポジウム


- 1, 頸椎人工椎間板の現状
- 2, 新技術の臨床導入
どこまで準備すれば社会的容認の範疇か？

主題

- 1, 成人脊柱変形の治療
一部演者指定
- 2, 困難な症例への挑戦
(骨疽粗鬆症・パーキンソン病に伴う脊柱変形・感染合併 他)

症例事前提示 発表者公募

- 3, 低侵襲手術の光と影
- 4, 合併症 私の対処法

| | | |
|----------|---------------------------------|--|
| 会期 | 2018年 9月14日(金) 15日(土) | <h1>融合</h1>  |
| 会場 | シェーンバウハ・サボー 東京都千代田区平河町 2-7-4 | |
| 会長 | 谷口 真 (東京都立神経病院 脳神経外科) | |
| 主題① | 主題② | 主題③ |
| 合併症私の対処法 | 低侵襲手術の光と影 (症例事前提示 発表者公募) | 困難な症例への挑戦 (一部演者指定) 成人脊柱変形の治療 社会学的容認の範疇か？ |
| | 骨粗鬆症・パーキンソン病に伴う脊柱変形 感染合併 他 | 頸椎人工椎間板の現状 新技術の臨床導入 どこまで準備すれば社会的容認の範疇か？ |



シンポジウムの見どころ

シンポジウム1：頸椎人工椎間板

いよいよ本邦でも使用開始される頸椎人工椎間板について先行したヨーロッパで、20年来開発にかかわってきた Bristol の Prof. Steven S Gill により概略説明、続いて München の Prof. Bernhard Meyer (IGASS vice president, European Delegate of AO Spine Europa) にヨーロッパでの使用現況報告、一方 Turkey の Prof. Mehemet Zileli (World Spinal Column Society past president, Asia Pacific Cervical Spine Society past president) より ‘is non-fusion better than fusion?’ という懐疑的な意見を集め、全体でディスカッションする。



シンポジウムの見どころ

シンポジウム2：新技術の臨床導入

外科にはどうしてもラーニングカーブが存在し、経験とともに手術成績が上がるのは否めない。一方、新規医療機器の臨床導入にあたり早期に事故が起これば、その度に、行政主導で導入までに要求される手順が煩雑化しているのが昨今である。このため、新技術を用いた医療全体が萎縮傾向にあり、国民の至福につながっていない。

そこで「何をどの程度準備すれば社会的容認の範疇か」をテーマにシンポジウム1でも取り上げた人工椎間板を例に、その導入までにどのような困難があったかをメーカー側担当者からと 認可にたずさわった PMDA の担当者から報告してもらおう。またユーザーである脊椎・脊髄外科医が現在抱えている不安についても心情を吐露してもらおう。最後に医療訴訟を専門とする弁護士より、新技術を用いた医療行為で発生した有害事象とそれに関与した医師の責任について分析してもらおう。

今回の新企画 ディベートセッション



主題 2, 困難な症例への挑戦

症例提示中 (http://www.jpstss.jp/meeting/25/case_presentation_revised.pdf)

発表者公募です

外国人招待演者も参加します。

M.Zilleli (Izmar Turkey)

B.Meyer (Munich Germany)



今回の新企画 ポスター発表重視

一般演題はポスターの比率を多くしますが、同時に優秀ポスター賞を充実します。一般口演よりも当選確率を高くします。

採点は、覆面審査員複数で行い、連日 審査員代表が、ポスタービューイングタイムの前に「本日のポスターの見どころ」を発表します



今回の新企画 Spine Leader's Lecture

例年通り、日整会単位取得が可能な、Spine Leader's lecture を準備しております。

今年も、脳外科医が会長ですので、脳外科系脊椎外科医からみて整形外科系の先生が比較的に見落とししがちな疾患群（脊髄動静脈瘻・脳脊髄液漏出症と脳表ジデローシス）や、硬膜損傷の修復の方法、神経疾患としてのパーキンソン病に伴う脊柱変形に対する包括的アプローチ法、さらに、日整会の必須受講項目である医療訴訟の最近の動向についてもセッションを設定します。



今回の新企画 ドリルセミナー

手術用顕微鏡の下で、ハイスピードドリルを用いた安全な骨削除法を学びます。脳外科の頭蓋底外科のトレーニングコースのノウハウを応用した脊椎外科手術編です。

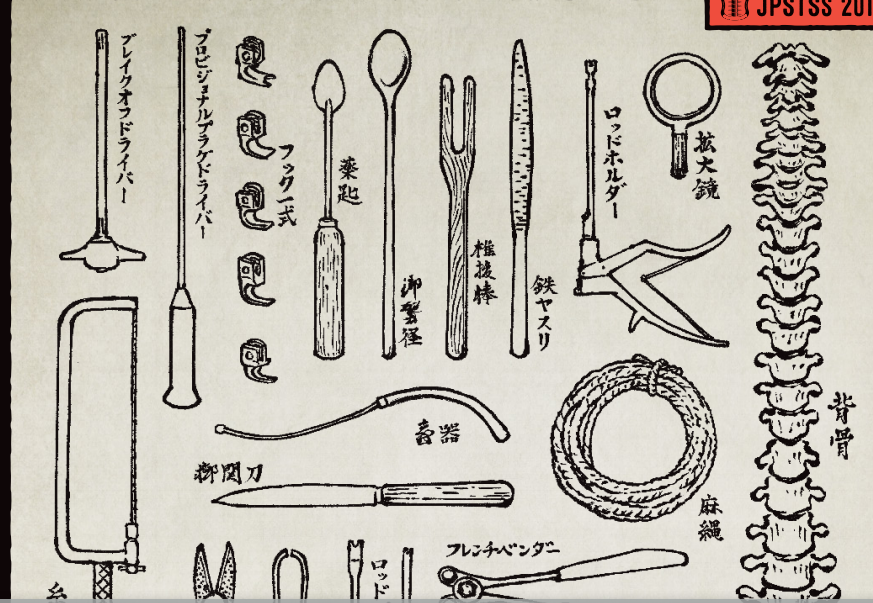
ウェットボーンと手術用顕微鏡を用いたドリルセミナー





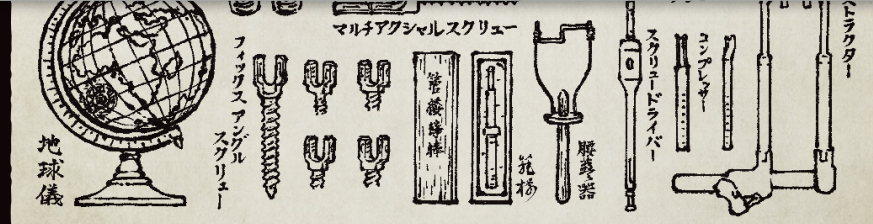
JPSTSS 2018

第25回 日本脊椎・脊髄



JPSTSS 2018 皆様の御参加をお待ちしております
演題締め切りは 5月25日です。

手技学会



| | |
|----|---------------------------------|
| 会期 | 2018年 9月14日(金) 15日(土) |
| 会場 | シェーンバッハ・サボー 東京都千代田区平河町 2-7-4 |
| 会長 | 谷口 真 (東京都立神経病院 脳神経外科) |

| | |
|-----|---|
| 主題① | 成人脊柱変形の治療 (一部報告指定) |
| 主題② | 困難な症例への挑戦 骨粗鬆症・パーキンソン病に 伴う脊柱変形 感寒合併他 |
| 主題③ | 低侵襲手術の光と影 (症例事前提示 発表者発表) |
| 主題④ | 合併症私の対処法 |

融合

シンポジウム① 頸椎人工椎間板の現状
シンポジウム② 新技術の臨床導入
どこまで準備すれば
社会的容認の範囲か？



日本脊椎・脊髄神経手技学会 事務局
〒107-0002 東京都港区南青山 2-22-14 フォンテ青山1206
TEL・FAX 03-6804-1044 e-mail: office@jpstss.jp

詳細は学会 HP を御参照ください。http://www.jpstss.jp/meeting/

